

# 卒業後の私

田中 一絵 (平成23年3月 文化財学科卒業)

## 1. 教師を目指したきっかけ

みなさんは、今どのような思いで教職課程を履修していますか。

私がみなさんと同じ学生の頃、教員になろうという思いは正直あまりありませんでした。母校での教育実習では教員という職業に少し興味を持ったものの、教員を目指そうと強く思うことはありませんでした。将来が定まらないまま卒業した私に転機が訪れたのは、卒業してすぐの4月下旬にかかってきた1本の電話でした。熊本県の教育事務所から欠員が出たので5月の連休から勤務してほしいという内容。どうしようか悩んだものの、「とりあえずやってみよう」という気持ちで承諾して勤務することになりました。実際に勤めてみると、教育実習のときとの違いに戸惑う場面が多くありました。また、5月末から1年生の担任をすることになり、毎日が分からないことの連続でした。先生方やときには生徒たちに教えてもらいながら、一つ一つのことを乗り越えていきました。そしてあっという間に迎えた3月。大変なこともたくさんありましたが、担任をした生徒や保護者の方に「先生が担任でよかった」と言ってもらえた瞬間に自分を認めてもらったような、すごく嬉しい気持ちを味わうことができました。この学校で過ごした約11か月は、「教師を目指してみようかな」と初めて心からそう思うことができた一つの大きなきっかけになりました。



## 2. 臨時的任用教職員として

熊本県で約11か月、鹿児島県で7年、約8年間で6校の公立中学校に常勤講師として勤務しました。この8年間で担任や特認校での勤務、部活動の顧問など様々な経験をさせていただきました。特認校とは市町村教育委員会が過疎化が進んでいる地域の学校に、校区外の希望する生徒の通学を認めている学校です。4年間で2つの特認校に勤務しました。特認校に来ている生徒の中には事情を抱えてきている生徒もいます。生徒への向き合い方や寄り添い方をこの4年間で学ぶことができました。また、講師という立場であっても部活動の顧問になります。私は、弓道部・剣道部・卓球部と自分が今まで経験したことがない部活動の顧問を担当しました。競技に関しては素人であるため技術指導はできませんが、自分に何ができるのかを考え、生徒指導や保護者との連携などできる限りのことをしてきました。放課後や土日に時間を割くため大変なこともありますが、生徒たちと一緒に過ごして得た結果は何とも言えない喜びを与えてくれます。私にとって部活動の時間は、生徒たちとつながりを深めることのできる貴重な時間だと思っています。

## 3. 教職課程履修のみなさんへ

大学4年生から教員採用試験を受験し続けて、10回目にしてようやく鹿児島県の教員採用試験に合格しました。令和3年4月から中学校社会科教諭として採用される予定です。合格するまでに私が二次試験まで進んだのは今回を含めて2回だけです。それまでの試験とこの2回は何が違ったのかというと、勉強の仕方です。それまでは、仕事から帰ってきて夜に勉強していました。しかし、仕事で疲れていて眠くてできないこともよくありました。それをこの2年間は夜9時には寝て、朝の3時に起きて6時まで勉強するというスタイルに変えました。そうすることで、以前よりも効率よく勉強できるようになりました。勉強の仕方は人それぞれです。ぜひ、自分に合った勉強法で諦めずに夢に向かって進んでいってください。

私の様に卒業してから本格的に教員を目指す場合もあります。「教員になりたい」と思うタイミングも人それぞれです。立ち止まっても、遠回りしてもそれは決して無駄なことではありません。自分のペースで、一步一步確実に夢の実現を目指してください。これから教職の道を歩むみなさんのご活躍を願っています。